コラム「日本水準原点」

日本水準原点は、菊花紋章が施された扉の向こうに収められています

国会議事堂に隣接する国会前庭（北地区）構内には、日本水準原点があります。

明治24年（1891年）、陸軍参謀本部陸地測量部（国土地理院の前身）のあったこの地に設置されました。以後、130年にもわたり、日本の統一された標高を決定するための基準として、測量の現場を支え続けています。

水準原点は、地下約10mからコンクリートとレンガで固めた基礎、花崗（こう）岩の台石、目盛りを刻んだ水晶板で構成されています。設置当初、目盛りのゼロの高さは、東京湾平均海面上24.500mとされていました。その後、大正12年（1923年）の関東大震災、平成23年（2011年）の東北地方太平洋沖地震による地殻変動を受け、現在の高さは24.3900mとなっています。

日本水準原点標庫

水準原点を保護する日本水準原点標庫は、ドーリス式ローマ神殿形式の古典的建築で、明治期の近代洋風建築を今に伝える貴重な施設です。また、壁面には、「大日本帝国」「水準原点」の文字が古い字体で刻まれています。

「近代測量150年」の節目の令和元年（2019年）には、古典様式の記念碑的建築であり、近代測量史上価値が高いとして、国の重要文化財（建造物）に指定されました。

水準原点は毎年、「測量の日」（６月３日）に先立ち、１年に一度５月下旬頃に一般公開しています（令和３年度は中止となりました）。

「水準原点」の文字

「大日本帝国」の文字

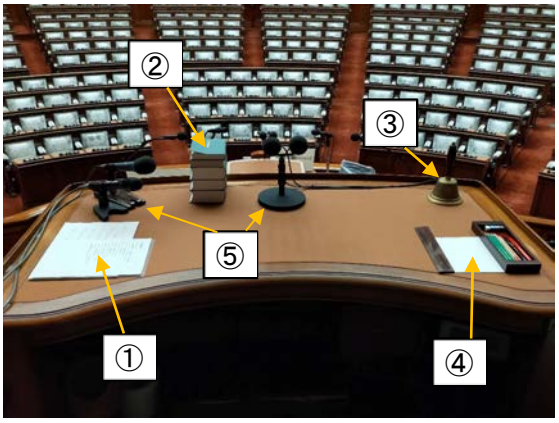
（参考文献：国土地理院ＨＰ、「世界大百科事典」平凡社）

コラム「議長の机の上には何がある？」

衆議院本会議場の正面中央の更にその真ん中で一段高くなっている机、それが議長の机です。テレビ等でご覧になっていて、議長の机の上には何があるのか気になった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

一番上の写真は、本会議があるときと同様にセットされた議長の机の上です。机そのものは幅1.5m程で、写真では机の上は意外と物が少なくあっさりしていますが、実際に使用する際は、このほかに議事に応じた資料が、真ん中の空いている部分にもう少し置かれます。

では、机の上にあるものを簡単に見ていきましょう。



議長の机の上

号鈴　右の写真は、大きさ比較のためＡ４サイズの紙の上に置いてみました

①事務書類　議場前面に座っている各大臣の座席表、日程や議事の順序、本会議場の議員の座席表などの書類が置かれています。

②衆議院要覧　一番上の冊子は、議員の顔写真と経歴が掲載してあるもので、残りの冊子は、議事関係や公職選挙法関係などの法規集です。

③号鈴（ごうれい）　議場の秩序維持のため、議長がこれを鳴らしたときは、「何人も、沈黙しなければならない」と衆議院規則に定められていますが、実際にはほとんど鳴らされたことはなく、「衆議院先例集」によれば、現行憲法下の使用例は平成12年のわずか１回のみ。その前の使用は、帝国議会時代の昭和21年ですので、なんと50年以上使われませんでした。なお、参議院では号鈴は「振鈴」（しんれい）と呼ばれていますが、こちらは、貴族院時代から一度も鳴らされたことはありません。

④筆記具・メモ用紙・定規　鉛筆やサインペン等、無地の紙、木製定規が用意されています。

⑤マイク　正面は議場用、左側はそれぞれＮＨＫと民放用です。議場用のマイクは現議事堂の竣（しゅん）工時（昭和11年）から設置されています。

マイクの導入も案外と古く驚きますが、号鈴は帝国議会の草創期からの伝統です。議長の机の上から、国会の歴史を偲（しの）ぶことができると思われます。

コラム「世界の国会議事堂 ― オーストラリア 」

議事堂正面からの風景

オーストラリア国会議事堂（Australian Parliament House）は、首都キャンベラのキャピタル・ヒルの真ん中にあります。1988年、オーストラリア植民200年目の年に完成したもので、「世界で最もオープンな議会の建物」を標榜（ぼう）しています。建物の大部分は丘の下に建てられていて、平たい建物に垂直に立った国旗掲揚塔が印象的です。そして、建物の上部からは緑の芝生の上を歩いて麓に降りることができる（2017年以降はセキュリティ強化の観点から禁止されている）、という造りになっています。

前庭のモザイク画

前庭には大きな儀礼用の池が作られていて、その中心の島には広さ196㎡のモザイク画があります。これは、アボリジニの芸術家ジャガマラ（Kumantye Jagamara）が描いた「ポッサムとワラビーの夢（Possum and Wallaby Dreaming）」を素材にしたものです。

建物に入ると、世界最大級のタペストリーが飾られた大ホール（Great Hall）、一枚岩の花崗（こう）岩でできたプールを持つ議員ホール（Members’Hall）といった場所があり、南半球では唯一、世界でも４部しかないという1297年版のマグナ・カルタ（大憲章：議会制民主主義の基盤をなす文書）の複製も保管・展示されています。

議事堂の南東側に下院（House of Representatives）の議場（Chamber）、北西側に上院（Senate）の議場があります。下院議場は緑を基調とした色彩になっています。これは、英国下院にならったものであるとともに、オーストラリアのユーカリが茂る光景を連想させるもの、とされています。一方、上院は赤を基調とした色彩。これも、英国上院にならったものであるとともに、オーストラリアの赤い大地を連想させるもの、とされています。

下院議場

上院議場

1927年から現議事堂が完成する1988年まで使われていた旧議事堂も現存しており、オーストラリア民主主義博物館（Museum of Australian Democracy）となっています。

（敬称略）

手前の白い建物が旧議事堂　奥に現議事堂も見える
（出所）Wikimedia Commons より"Lake-ParlHouse.JPG"
[CC BY-SA 3.0]を加工して使用

（参考：オーストラリア連邦議会ＨＰ、国土交通省ＨＰ、「新版 世界各国史 27 オセアニア史」（山川出版社）、「地球の歩き方 2021～22　オーストラリア」（ダイヤモンド・ビッグ社）、「連邦議事堂屋根の芝生、警備問題で立入禁止」（日豪プレス 2016 年 11 月 28 日付）、「連邦議事堂の芝生屋根に新しく警備柵設置」（同 2017 年９月 12 日付））

コラム「新たな国立公文書館の建設」

「永田町」といえば立法府のある場所で、町名だけで国会のことを指すこともありますが、そこに行政府の建物が計画されています。新たな国立公文書館です。

国会の前庭にある憲政記念館を取り壊し、新たに憲政記念館・国立公文書館の合築として令和10年度末の開館を目指して建設が進められます。

現在の国立公文書館本館

現在の国立公文書館つくば分館

現在の国立公文書館は東京都千代田区の北の丸公園に本館、茨城県つくば市に分館がありますが、本館は老朽化が進み展示機能も十分とは言えず、新しい公文書館の在り方とともに新館の必要性が議論されていました。

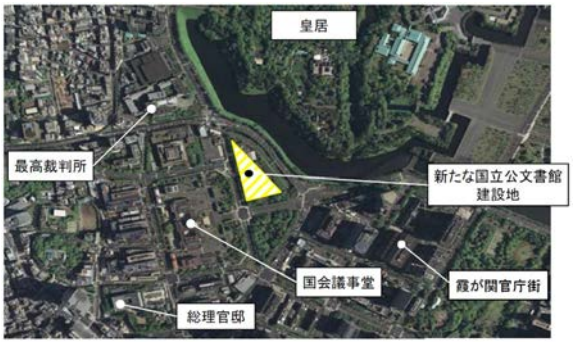
そこで浮上したのが、国会の敷地内に新館を建設するというものでした。予定地を管理する衆議院の議院運営委員会に小委員会が設置され、敷地内の複数の候補地から国会前庭が選ばれました。

新国立公文書館（左）及び新憲政記念館（右）西側外観（イメージ図）

出典：内閣府魅力ある新国立公文書館の展示・運営の在り方に関する検討会（第１回）配布資料

基本計画では、行政府の国立公文書館と立法府の憲政記念館はそれぞれに違った成り立ちと役割があるとした上で、その独自性を保ちながらも、共同で使用できるスペースを集約したり、展示スペースを近接させたりといった一緒に建設されるメリットを活（い）かす工夫が考えられています。

立法、行政、司法の三権の間に建つ新国立公文書館。国民に身近な親しまれる場になるといいですね。



新たな国立公文書館の建設地

（参考：国立公文書館ＨＰ、内閣府資料）